

園長だより NO37

災害に備えて

新潟、山形の地震、連日、現地の災害の情報がメディアを通じて届いています。今後1週間、最大震度6の地震が発生する可能性があるとして気象庁は注意を呼び掛けています。災害で様々な被害、損害、一日も早く復旧することを願っています。

明日は我が身、関東も大きな地震がくると専門家は意を唱え、訓練やその対策を十分に考え取り組んでいくことを啓発しています。

災害時の対応として保育園においては訓練に加え、非常事態における対応などのマニュアルを作成しています。昨今は自然災害が猛威を振るい各地でも大きな被害が出ています。保育園を管理する所轄庁も防災についての注意喚起、具体的なマニュアル整備、管理者の研修など十分な体制を整えるにあたり様々な働きかけをしています。

市行政も洪水ハザードマップを作成し防災関係機関（行政、医療、ライフライン関係機関）などの連携を通じて市民の安全を図ろうと努めています。

保育園では今後も園児の生活、命を守るために災害時の対応を学び、実践に結びつけていけるよう努めていきます。



6月7日の総合訓練（くぬぎ山消防署立会い）

救命講習

5月11日、6月15日の両日で救命講習を鎌ヶ谷市消防本部にて受講しました。

子ども達の安全、安心な生活の維持、子ども達の命を守るため、必須の救命について定期的に講習を受けています。



心肺蘇生、AEDの取り扱い、乳幼児の窒息時の対応を学んできました。

園内研修

6月18日に園内研修を行いました。

テーマやその目的は

- ・主体的な学びの機会を持ち、保育士の専門性向上を図る
- ・主体的で対話的な学びの場づくり
- ・子どもの主体的を育てるためには保育士自身が主体的である必要がある。研修をもとに多角的に子ども、保育士をみていく学びの機会とする

以上のようなテーマやねらいを持ち園内研修係が中心になり企画運営にあたっています。

今回の研修はEテレすくすく子育てにも出演、子育て相談にも定評のある井桁容子先生（乳幼児教育実践研究家）の講演に参加した2名の職員の研修報告から始まりました。

その後、小グループに分かれディスカッション、発表と進んでいきました。

井桁先生は長い間0、1、2歳児の保育を实践され、保育の深さ、面白さをたくさん蓄えられてこられた方です。子どもを見る温かいまなざしと子どもの心に寄り添い、子どもの行動や表現の奥にある学びや思いを読みといていく保育のありかたを实践、提唱されてきました。

報告では子ども達の学びや思いを読み解いていく保育のありかた、具体的な保育士のかかわり、環境のつくりかた、保育士同士の関係性の築きなど、保育士ならば実践しなくてはならない観点が伝えられました。

日々、気ぜわしく過ごしている職員にとってはそれぞれのゆとりを生み出すため、今後の保育のありかたの再考と具体的な試みを実践に反映できるように取り組んでいく必要があります。



保育のまなざし 井桁容子著／発行チャイルド（感じることの大切さを教えていただけの一冊です）

まねて たのしむ

あこがれから おおきくなったことを実感

「わっしょい わっしょい」あれれ、おみこし担ぎの掛け声がする。何組だろうか？ 声から想像するにはりんご組？ばなな組かな？



救急隊が担架で患者さんを運んでいるようにみえますが おみこしです
みんなでわっしょい！ わっしょい！

楽しそうな声をきき、そわそわ、誘われるように行くとりんご組（2歳児）の子ども達です。

来月には夕涼み会、お兄さん、お姉さんは程よく、楽しんでおみこしを制作したり、ソーラン節を踊ってみたい、そんな様子を見ているりんご組の子ども達、みよう見まねで、楽しんでいるお兄さん、お姉さんを再現しています。

「わっしょい わっしょい」の掛け声には子ども達の思いが感じられます。子ども達のみせる姿にはそれぞれの思いがあることが伝わってきます。

その一瞬、一瞬にかかわる大人は感じる、感じてあげる心を向かい合わせてあげたいものです。

（園長 廣部 信隆）